

第17章

バングラデシュの経済地理統計データ

坪田 建明

キーワード：

バングラデシュ 経済 地理 データ

1. 地理的区分

最も大きい行政区として管区が存在し、その下に地区がある。2005年時点で、管区は6つあり、クルナ管区、シレット管区、ダッカ管区、チッタゴン管区、バリサル管区、ラジシャヒ管区であった。2010年1月にラジシャヒ管区の北側をロンブール管区とし、7つの管区となっている。2005年時点では64地区であった。英語では、管区をdivision、地区はdistrictsと読んでいる。ただし、districtは現地語でzilaと表記されることも多い。

表1 管区別の地区名

管区名	地区数	地区名
Barisal	6	Barguna, Barisal, Bhola, Jhalokati, Patuakhali, Pirojpur,
Chittagong	11	Bandarban, Brahmanbaria, Chandpur, Chittagong, Comilla, Cox's Bazar, Feni, Khagrachari, Lakshmipur, Noakhali, Rangamati,
Dhaka	17	Dhaka, Faridpur, Gazipur, Gopalganj, Jamalpur, Kishoreganj, Madaripur, Manikganj, Munshiganj, Mymensingh, Narayanganj, Narsingdi, Netrakona, Rajbari, Shariatpur, Sherpur, Tangail,
Khulna	10	Bagerhat, Chuadanga, Jessore, Jhenaidah, Khulna, Kushtia, Magura, Meherpur, Narail, Satkhira,
Rajshahi	16	Bogra, Dinajpur, Gaibandha, Jaipurhat, Kurigram, Lalmonirhat, Naogaon, Natore, Nawabganj, Nilphamari, Pabna, Panchagarh, Rajshahi, Rangpur, Sirajganj, Thakurgaon,
Sylhet	4	Habiganj, Maulvibazar, Sunamganj, Sylhet,

2. 産業分類

バングラデシュの産業分類は、Bangladesh Standard Industrial Classification (BSIC)と呼ばれており、これまでに数回の改訂が行われている。最新の改訂は2009年である。2001年以降の産業分類(BSIC-2001)はISIC Rev. 3に準拠している。

3. 人口

国勢調査は2001年に実施されており、Zilaごとの人口などは容易に入手可能である。国勢調査を利用すれば、Rural to Rural, Urban to Rural, Rural in-migration と Rural to Urban, Urban to Urban, Urban In-migration が年齢別、性差別、移住期間などが公表されている。

また、Sample Vital Registration Survey2008/09にも人口移動調査が収録されている。ただし、Percentage distribution on Immigrants along with Sex-Ratio by Zila などといった形でしかなく、outmigrants について地区毎での公表はないため net-migrants のパーセントは公表されていない。そのため刊行されている統計書から人口移動推計に必要となるデータを入手することはできない。ただし、SVRS はサンプル調査なので、microdata の入手が可能なので、推計に必要となるデータの構築も可能であろう。

4. 地域別・産業別 GDP 入手可能性

地域別の付加価値額の最新は2000年に実施されたRGDP推計の結果である。地域別の産業については2001-02年の地区別の経済センサスを用いれば、製造業の中分類までは雇用者数が入手可能である。2005年時点への調整は、全国GDPや併せて2005-6年のSurvey of Manufacturing Industriesも利用する必要がある。

なお、バングラデシュ統計において注意が必要な点としては、これまでCensus of Manufacturing Industriesと呼ばれていたものは、実際にはサンプル調査であることから全標本調査ではない。以下では経済センサスと呼ばれていたものを経済センサスと呼ぶが、これはサーベイを意味している。この経済サーベイのサンプル抽出はBusiness registerに基づいている。

経済センサスと同様は農業センサスは1996年の後は2008年に実施されており、地区ごとに公表されている。データは多岐に渡っており、かつ、詳細である。統計年鑑には地区毎の集計表が農業センサスについては掲載されている。一方で、経済センサスの内容については掲載されていない。そのため、原資料にあたる必要がある。また、経済センサスは2001年と2003年に行われている。これは2年にまたがって実施されたわけで

はなく、都市部と農村部が別々に実施されたためである。都市部が 2001 年、農村部が 2003 年の実施である。

雇用者数や企業数のみについてのデータであれば、Business register が利用可能である。企業単位で住所・企業名・雇用者数が全て開示されている。この統計は 2005 年の次は 2009 年に改定が行われている。Ministry of Finance の National Board of Revenue が主管となっており、雇用者が 10 人以上の企業は全て登録されていることとなっている。ISIC の大分類ごとに収録されている。各巻には集計地が収録されている。製造業中分類の集計表・小分類までの全国統計規模別統計 (small, medium, large, total) が収録されている。

なお、雇用者数が 10 人以下の企業については cottage industry と呼ばれており、2012 年 3 月に統計が刊行される予定である。

5. 経済地理データ作成の手順と課題

農業部門の付加価値については農業センサスを用いれば入手可能である。製造業とサービス業については Business Register を利用すれば、必要となる地理区分に対応した集計が可能である。ただし、雇用者 9 人以下の企業についてはサンプルサーベイを利用する必要があり、これら企業の付加価値額への貢献度を計算する必要がある。また、現行の (GSM の) 経済地理データセットでは、バングラデシュの人口規模を鑑み管区ではなく県を地理区分として用いている。他国 (都市国家を除く) よりも一地域あたりの平均面積が小さくなるため、それによって生じるバイアスに注意する必要がある。

6. 関連統計ソース

Survey of Manufacturing Industries

Sample Vital Registration Survey 2008/09

Economic Census 2001 & 2003, Zila report

Business Register 2005, 2009

Bangladesh Standard Industrial Classification

Provisional estimates of gross regional products 1995 -96 to 1999-2000

Population Census 2001